

2 3

# 熱田高同窓会報

発行  
愛知県立熱田高等学校  
同窓会事務局  
TEL(052)-652-5858

同窓会ホームページ  
URL:<http://www.atsuta.gr.jp/>

熱田高校ホームページ  
URL:<http://www.atsuta-h.aichi-c.ed.jp/>

## 目次

**巻頭文** ----- 1  
 コロナ禍の先の希望  
 副会長 石田直城 15 回生

伝統と継承と新たな発展を -- 2  
 19 代校長 熊谷誠人 先生  
 2 度目の卒業  
 18 代校長 三好博輝 24 回生

**熱田高校の今** ----- 3  
 進路状況と今後の展望  
 進路指導主事 寺村祐耶 先生  
 卒業生・在校生の声 ----- 4  
 コロナ禍の大学生活と私  
 64 回生 河野紗和  
 コロナ禍でも突き進む  
 3 年(67 回生) 桑原拓也  
 自由の難しさ  
 1 年(69 回生) 寺田祐悟  
 定時制課程の今  
 教頭 加藤大真 先生

**がんばれ熱校生** ----- 5  
 熱高に感謝を込めて  
 旧職員 清水貴子先生  
 人生の主役  
 13 回生 山本 純  
 原発から視野が広がった  
 24 回生 高山文子  
 環境を言い訳にせず  
 「今」を生きる  
 49 回生 瀬戸貴幸

**事務局だより** ----- 8  
 会計報告 訃報 あとがき  
 挿し絵 11 回生 田中和枝(竹内)

**創立 70 周年にむけて** 別刷り  
募金寄附者一覧 (3 年 4 月末)

同窓会の QR



題字

初代書道教諭 名郷紫山先生



第 66 回生卒業式

私が高校を卒業した年も、学園紛争で、熱田高校の卒業式も、大荒れであったことを覚えています。しかし、そのことが、同期会の席では一つの思い出となり、100 人を超える仲間が、今でも集る楽しい憩いの

えようとしています。



**コロナ禍の先の希望**  
 副会長 石田直城(15 回生)

第 66 回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、新たに今春、ご入学の第 69 回生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

場ができています。そこで、このコロナ禍の先をぜひ皆様で考えていただきたいのです。

同窓会は、「運動場の人工芝化」を計画しています。これは、未来の熱田高校生に送る、コロナ禍の先の希望のプレゼントです。「ふるさと納税制度」を活用し、ご負担が少しでも軽減される工夫もいたしました。

コロナ禍で大変な今だからこそ、同窓生の絆を大切に、後輩の豊かな学校生活を支える夢を、皆様の大きな支援で夢を叶えて行きましょう。

### 70 周年募金報告 4/30 現在

特定寄附金 390 件 20,108,052 円  
 一般寄附金 311 件 3,660,460 円



完成予想 緑一色の運動場

伝統の継承と新たな発展を

校長 熊谷 誠人



この春、熱田高校の第 19 代校長として着任いたしました。前任の三好博輝校長先生、第

17 代校長の北角治先生と、本校卒業生の立派な先生方の跡を受け、熱田高校のバトンを引き継ぐことの責任の重さを感じています。

今年は春の訪れが早く、4 月 6 日の入学式の日には、正門に立ち並ぶ桜に若葉も見られました。その佳き日に、全日制課程第 69 回入学生と定時課程第 57 回入学生とが加わり、令和 3 年度が始まりました。

本校に来て私の目に映ったのは、熱田高校の生徒たちの活力ある姿でした。令和 2 年度はコロナ禍のために部活動の多くの大会が中止となりましたが、その中でサッカー部は選手権大会で全県ベスト 16 に入り、陸上競技部は男子ハンマー投げで県の上位に入賞、また女子バスケトボール部は 3×3 の U 18 日本選手権大会で全国大会に出場しました。

また、1 棟に入った際の第一印象は校舎内が明るい光に包まれているということでした。これは令和 2 年

度の校舎の改修工事によるものです

が、中でも注目されるのは A L (アクティブ・ラーニング) ルームが 2 室備えられていることです。これは本校が「あいちラーニング推進事業」の研究指定校であったことと関係しています。完成した A L ルームには、

それぞれにグループ学習を進めるための 4 人掛対面型の机と椅子が 11 セットあり、教室の前面と側面の大型ホワイトボードや、プロジェクトとスクリーンの設置等、「主体的対話的な学び」を支援する環境が整えられています。それだけでなく、全校生徒が既にロイロノート・スクールを活用していると知り、ICT 教育の進展の早さに驚いています。令和 3 年度には、年度当初から生徒一人ずつに県で配備されたタブレットが使われ始めています。

これら部活動の活躍も、教育環境の整備も、いずれもこれまでの本校関係者の皆さまのご尽力によるものです。私も本校の伝統を大切にしながら、新しい時代を切り開く力を備えた有為な若者を育ててまいりたいと存じます。

同窓会の皆さまには今後ともご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

2 度目の卒業

前校長 三好 博輝



本年 3 月 31 日に定年退職となり、高校以来 2 度目の別れを熱田高校に告げることにになりました。

3 年間という短い期間でしたが、母校の校長として最後を迎えられたことは、この上ない喜びであるとともに、大変誇らしい気持ちに満ちています。この 3 年間、佐々木元彦同窓会長様はじめ同窓会の皆様方からご支援やご助力をいただき心より感謝申し上げます。

在任中の思い出は数限りなくありますが、何と言っても、コロナに始まりコロナで終わった令和 2 年度は、後世に残る歴史的な年であり、特筆すべきものであったのではないかと思います。

入学式の翌日から休校となり、学校再開後は、感染防止対策に努めながらの学校生活。始業式や終業式はすべて放送で実施し、1 学期は、遠足・球技大会・文化鑑賞会が中止となりました。2 学期も熱田高校最大の行事である熱高祭が、文化祭は中止を余儀なくされ、体育祭は種目を精選しての実施となりました。しか

し、県の緊急事態宣言解除後ではありましたが、修学旅行を何とか実施することができましたことは唯一の救いでした。

また、そのようなコロナ禍の中がかねてより計画されていた長寿命化工事が始まり、職員・生徒にとってはさらなる窮屈な生活を強いられることになりました。令和 3 年 3 月に 1 棟の工事が無事完了し、桜が咲き誇る頃、正門から眺めた時の桜の向こうに白く聳え立つ校舎は、実に見事な景観であり、われわれの気持ちを清新なものにしてくれます。

現在、同窓会におかれましては、熱田高校のさらなる魅力づくりのため、グラウンドの人工芝化に向けた募金活動を進めていただいています。

白亜の校舎の向こう側に鮮やかな緑のグラウンドが広がる様は、伸びゆく熱田高校の新たな象徴となるのではないかと思います。この先解決しなければならない問題は山積しているかとは思いますが、人工芝グラウンドが実現することを心より願っております。

最後になりましたが、今後の熱田高校同窓会のますますの発展と同窓生の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。3 年間どうもありがとうございました。

熱田高校の今

進路状況と今後の展望

進路指導主事 寺村祐耶



昨年度の入試は入試改革の初年度であり、30年続いたセンター試験が共通テストに変わる最初の年でした。

国が行う入試改革は順調ではなく、英語外部試験や共通テストでの記述問題が直前に急遽とりやめになるなど、生徒も教員も準備や対策に散々振り回されてきました。

さらに追い打ちをかけるように新型コロナウイルスの流行があり、休校による授業の遅れや、入試そのものが行われるのか分からない状況の中でも最後まで粘り強く目標に向かって頑張り抜く生徒がたくさんおり、クラスの中で受験に立ち向かう良い雰囲気を作ってくれました。困難な状況下においても自身の伸びしろを信じて最後まで努力し続ける雰囲気づくりを心がけて、今後とも指導していきます。

令和2年度 卒業生の進路					
国公立	私立大	短大・専門	その他	浪人	合計
18	230	38	9	19	314
6%	73%	12%	3%	6%	100%

過去3年間の地元主要大学の合格総数						
年度	南山	愛知	名城	淑徳	金城	椋山
R 2	42	80	73	53	23	15
R 1	38	54	69	54	16	25
H30	15	34	49	63	12	19

国立大学入試改革の変遷

1978年(昭和53)以前は、国立大学は1期校・2期校に分けられ、入試問題は各大学でそれぞれ作成された。しかし入試問題の難問・奇問が問題化された。そのため良問(教科書にそった内容)による一定の学力を測る目的で、国立大学志望者に1979年(昭和54)、共通1次学力試験(共通1次)が導入された。それは画期的な事であった。しかし「大学の序列化を不当に招く」などの批判を受け、11年で終わりを告げた。1990年(平成2)からは大学入試センター試験(センター試験)と名を変え、私立大学も参入した。国立大学のほとんどは、5教科・7科目が受験の必須とされた。しかしセンター試験も、コロナ禍の2020年、30年の歴史に幕を閉じた。そして2021年(令和3)1月、

大学入学共通テスト(共通テスト)がはじめて実施された。それは情報化社会の進展・グローバル化(世界の一体化)など時代の変革期に対応するものである。入試問題も知識重視からの脱却をはかり、知識を活用し、考え・判断し問題を解決する能力を測るものとなった。出題科目は国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語で構成された。2022年度から、高校で新設・必修化される「情報」・「歴史総合」・「地理総合」・「公共」が、2025年から(今の中学2年生)から共通テストに加わる。現行の6科目30科目から、7教科21科目にスリム化・再編され、本格的に始まる。(文責 同窓会会報係 谷澤)

卒業生・在校生の声

コロナ禍の大学生活と私

64回生 河野 紗和



今までの日常が突然失われてしまったら。自分の生活がどれだけ変化するか考えたことはありませんでした。ましてや本当にそんな世の中になってしまふなんて、私は思いもしませんでした。

大学へ進学して1年が経ち新しい環境にも慣れ、勉強に、友人にも恵まれ充実した毎日でした。そして2年時、突然のコロナウイルスの流行でそれまでの日常が一変しました。春休みの予定もなくなり、サークル活動もできないような状況でした。そんな中でオンライン授業が開始されることになり、私たち学生はもちろん先生方も初めてのことばかりで混乱していました。オンライン授業は効率的ではありますが、教室での講義と比べると物足りなさを感じます。人とのつながりがほとんど無くなってしまったことが一番辛いものでした。自分達が当たり前と思っ過ぎていた日々は、こんなにも簡単に崩れ去ってしまうのだと愕然としました。

しかし、コロナの影響で家族や友達との存在の大きさを改めて感じる事ができました。ストレスが溜まる状況の中で、家で過ごす時間が自分にとって家族との会話を増すことになり、また友人と久しぶりに会う時間、とても貴重な時間となりました。コロナ禍で色々なことに規制がかり、不自由な世の中になってしまいました。その中で学んだ当たり前と思っていた人とのつながりの大切さを感じました。そして、何か1つでも自分にとつ

てプラスになることを見つけて、少しでも希望を持つようにすることでコロナ禍での過ごし方や考え方も変わっていくと思います。この先どうなるかわからない不安な状態が続きますが、いま自分にできることや時間を大切にしていきたいです。

(現 愛知大学3年生)

**コロナ禍でも突き進む**

**3年(67回生) 桑原 拓也**



今、世界中がコロナウイルスによってふりまわされています。日本においても、ようやく緊急事態宣言が解除され、第3波も収束するとおもわれました。しかし、現実は甘くなく、収まるどころかまた徐々に感染者数が増加しています。そんな中で、私達受験生は不安でいっぱいです。センター試験から大学入学共通テストに形式が変わり、過去問はたったの1年分しかない状況です。コロナウイルス感染症の影響で、例年ならば本番の緊張感を味わいながら受けるはずの模試も、熱田高校内で受けています。このような状況の中でも、私達熱高生は、普段以上に授業に取り組み、苦しい中でも自分の目指す将来に手が届くよう日々受

験勉強に励んでいます。高校生活最後の1年になります。卒業生の皆様の期待に応えられるよう、コロナ禍の受験を一生懸命やり切ります

**自由の難しさ**

**1年(69回生) 寺田 祐悟**



入学して思ったことは、「中学校では、ルールが厳しくて、自由というものをあまり知らなかった」と、そんな風に感じた。ルールが厳しかった中学校時代に比べて、熱田高校の「生徒の自主性を重んじる」という校風はとても魅力的に思いました。そんな少しわくわくした気持ちで学校説明会にのぞんだ時に「自由には責任が伴う」という言葉を聞いて、思っていたよりも自由とは難しいのかもしれないと思いました。自由だからこそ、自分で考えて行動する必要がある。それはルールに従って動くことよりも何倍も難しいことだと思った。「これはしてはいけない」「このくらいならいいのかな」と自分で考え、ある程度の基準を作り行動する。私はスマートフォンで考えてみました。誰もが簡単に情報発信ができるのは良いことです。しかし、その反面使い方を間違えれば、

大きな問題になってしまいます。スマートフォンでの発信は、自由ですが、使い方を間違えると人を死に追いやってしまうことになりかねません。自由という言葉の意味を履き違えず責任を持って、今と向き合うことができる人。そんな人になれるように3年間頑張ります。

**定時制課程の今**

**教頭 加藤 大真**



4月より惟信高校から熱田高校定時制に着任した加藤大真と申します。令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策を踏まえながらの幕開けとなりました。今年度は入学式や始業式が予定どおり実施できたことにほっとするとともに、感謝の気持ちでいっぱいです。

令和2年度の報告をします。1学期は、臨時休業の影響で授業や行事を予定どおりにできない日々が続きました。しかし、2学期には、新型コロナウイルス感染症拡大対策を施しながら、「文化鑑賞会」「球技大会」「体育祭」「修学旅行」等の行事を行うことができました。

文化鑑賞会では、前年に引き続き劇団四季のミュージカルを鑑賞しま

した。ミュージカル「ライオンキング」を鑑賞した生徒からは「もう一度見たい」「楽しかった」という声が寄せられ、文化や芸術に触れる貴重な機会になりました。例年6月に行っていた球技大会は、10月に変更し7人制バレーボールを実施し、元氣いっぱい生徒たちが躍動して、大盛況でした。体育祭は、感染症対策を踏まえ、借り物障害物リレーや大縄跳びなどを行いました。3年生の修学旅行は、当初予定していた沖縄から場所を変更し、2泊3日で京都の嵐山や大阪のユニバーサルスタジオジャパンなどに貸切バスで行きました。

定時制・通信制高校生の大会イベントである「生徒生活体験発表大会」では、学校代表として、3年生の藤川拓実さんが『経験』という題で発表しました。生徒会などを通じて学んだことや自分と向き合ったことが素直な思いで溢れる感動的な内容でした。

この春、今まで熱田高校定時制を支えてくださった三好校長・渡辺教頭、内田先生が退職・転勤されました。離任式では生徒たちへの思いを熱く語られ、生徒たちは真摯な態度でその思いを受け止めていました。これからも、先生方と力を合わせて頑張っていきたいと思います。

# がんばれ熱高生

今回は1人の恩師と3人の卒業生に原稿を依頼しました。清水(前田)貴子先生は、新任の音楽教師として赴任され、8年間教壇に立たれました。その後、本校の教頭として再赴任され、熱田高校とは深い縁があります。現在は愛知県教育委員会生涯学習課に在籍しています。

13回生の山本純氏は、このコロナ禍、医師として医療経営者として奮闘しています。24回生の高山文子氏は、現在学習支援ボランティアの活動をしています。49回生の瀬戸貴幸氏は、プロのサッカー選手として東欧のルーマニアで活躍しています。それぞれの皆様に熱高生のためにその心の内を語っていただきました。

## 熱高に感謝を込めて

### 旧職員 清水貴子(旧姓 前田)



熱田高校では、新任から8年間、そして、平成29年から3年間は教頭として御世話になりました。

偉大な先輩の先生方・生徒達、卒業生の皆さんに育てていただき、多くの事を学びました。熱田高校は、私にとってまさに「母校」です。

秦賢吾先生が築かれた歴史ある吹奏楽部を何もわからないまま引継ぎ、指導もままならず当時の部員の

皆さんには迷惑をかけました。それでも楽しく吹奏楽部の顧問を続けられたのは文句も言わず活動してくれた心優しい部員たちと、困ったときに色々助けていただいたOBの皆さんのお陰です。

その間、3年間担任をさせていただけました。熱高祭では、クラス企画でミュージカルを上演したり、教室の避難はしごを使って避難訓練をしたりと、担任が一番楽しんでいたかもしれません。

現在は、以前5年間勤務した県教育委員会生涯学習課に戻り、主に学校教育以外の、社会教育に関わる仕事をしています。教育委員会では、偶然にも熱田高校で教えた3名と一

緒に仕事をすることとなりました。授業を担当した39回生の下山京美さん(保健体育科勤務)、吹奏楽部OGの41回生、市川律子さん(総務課他を経て、現在文化芸術課国際芸術祭推進室勤務)、そして42回生の野崎通広さんは、生涯学習課内の同じグループで毎日一緒に働いています。3名とも、愛知県の教育を支える優秀な人材として活躍してくれており、大変嬉しく思います。

熱田高校は70周年を迎えますが、伝統を大切にしつつ、授業や行事、部活動に常に新しいものを取り入れている、活気に満ちた学校です。長い間、熱田高校で多くの事を学ばせていただいたことに感謝し、それを何らかの形で恩返しできたらと思います。そして、これからの熱高生の皆さんにエールを送ります。

がんばれ熱高生！



吹奏楽部定期演奏会

## 人生の主役

### 13回生 山本純



唐突ですが、もうすぐ80歳になる私の友人を紹介しましょう。彼は毎朝4時半に起き、野菜畑の手

入れをしています。彼の育てる野菜はバラエティに富み、しかも広い畑をひとりで世話しているのです。彼の野菜は、見た目こそ褒められたものとは言えないものの、味はどれも抜群に美味しいです。そんな彼は、かつて学習塾を経営し、自身も講師として子供たちに勉強を教えていました。彼にとって、農業はあくまで趣味であり、第2の人生を謳歌する一環なのですが、日々情熱的に生きる姿は素晴らしいと思います。

熱高生の皆さん、はじめまして、医療法人純正会の理事長を務めている山本と申します。私が熱田高校を卒業し、早くも半世紀以上経過しました。今回皆さんへメッセージを送る機会をいただき、嬉しさと懐かしさがこみ上げています。皆さんの手本になれるような生き方ではないかもしれませんが、ひとつこの質問を投げかけたいと思います。

「皆さんの人生の主役はだれですか？」奇妙な質問に思われるかもしれ

れません。「人生の主役なんて、自分に決まっている」と思う方が多いと思います。ただ、一度この問いについて再考してみても欲しかったのです。「皆さんは自身の人生の主役になれていますか？」人生の主役になるということは、日々の生活において強い意志を持ち、自らのふるまいや発言に責任を持つことではないかと私は思います。

偉そうな問いかけをしておきながら、私自身、高校時代まで明確な目標があったわけではありませんでした。親が医師をしていた影響で、迷うことなく医学部を受験しました。しかし、入学後は思いのほか勉強が楽しくなり、がむしやりに学びました。そして、医師として多くの患者様と接することになり、初めて人生の目標が生まれたのです。いずれ自らの手で、患者様やご家族に寄り添った診療を行う病院を作るというものでした。患者様の多岐にわたるニーズに対応すべく、一般診療を扱う病院から介護を手掛ける老人ホームまで、環境を整えました。医師と経営者という二足のわらじ生活は、決して順風満帆ではなく、数えきれないほど失敗もしました。ただ今の私があるのは、決意を曲げずに自らの意志で突き進んできたからではないかと考えます。あるときは「やめた

ほうが良いのでは」と苦言を呈した人もいました。それは、私のことを心配してかけてくれた言葉だったのだでしょう。しかし、私は自らの決断を信じ、揺らぐことは一度もありませんでした。私の人生を振り返り思うことは、目標を達成するには、何よりも自身を信じるのが重要だということだと思います。それは意地を張るということではなく、信念を曲げないということだと思います。

冒頭に紹介した友人も、確固たる意志を持って、農業に取り組んでいます。年齢的にも体力的にも、ひとりで多くの野菜を育て収穫することは、容易ではないでしょう。しかし、彼は弱音を吐くどころか、むしろ楽しんでるように見えます。

私も彼のように楽しむことを忘れず、一人でも多くの方が健やかな日々を送るため、さらに法人を支えてくれる職員の方たちの努力に応えるため、生涯この身を捧げたいです。今日、世界全体が未曾有の事態に翻弄され、私たちの暮らしの様々なところで変化を与儀なくされました。誰もが我慢を強いられ、ともすれば意気消沈しがちです。しかし、そのような社会の状況に屈せず、熱高生の皆さんが自らの人生の真の主役となるべく、邁進していかれることを願っています。

原発から視野が広がった

24回生 高山文子(旧姓 加藤)



私が卒業した愛知県立女子短大は夜間3年課程でした。3年時に名古屋工業大学数学教室でアルバイ

トをしていた事が、思わぬ展開になりました。在職中に大学の山里眞講師がソ連に留学され、そしてチェルノブイリ原発事故から4年後の1990年4月、先生の留学先であったソ連科学アカデミー・ステクロフ数学研究所のポロフコフ氏から先生に、ウクライナへの救援要請が届きました。日本では報道されていないウクライナの人々の放射能被害について、山里先生は中小企業センターで開かれた集会で話されました。その呼びかけに参加した医師を含む約80人の思いは強く、チェルノブイリ救援・中部を立ち上げ、8月には、450kgの救援物資を持って受け入れを表明したウクライナ・ジトミル州へ、報道陣を含む4人が渡航されました。私はと言うと、子育てサークルのママ友に、ソ連の現実を伝え共感を得た方々とグループを作りました。勉強会の中、食物連鎖で頂点に立つヒトに放射能が濃縮されることを知り、それは衝撃的な情報でした。放射能

に関する興味や関心は、農薬・食品添加物まで広がりました。また、私は地震が起きたら一番危険なのは原発だと防災講座で発言して来ました。しかし、東日本大震災から10年を経た今も、人々が住めない土地が出来るのは悔しいです。

チェルノブイリ支援活動は、今も続いています。ウクライナのジトミル州で汚染された土壌で菜種を栽培し採取した油は食用に、搾りかすはバイオガスとして馬の代わりに車を走らせています。菜種油に放射能は濃縮しないことを突きとめた河田昌東理事(元名古屋大学理学部助手)は、震災当時の桜井・南相馬市長に市内の汚染地図作りと菜種栽培を依頼されました。昨年、市は学校給食に製品化した菜種油「油菜ちゃん」を採用しています。

私の脱原発グループのメンバーから「豊田市立幼稚園の給食の献立表に牛乳と書いてあるけど、加工乳が毎日出ているのよ。」と相談を受けました。加工乳は脱脂粉乳に水と油を混ぜたものです。我娘も同じ幼稚園でしたので、誘



い合って 4 人で市役所を訪ねました。担当課長補佐が「幼稚園給食には補助金が出ないから加工乳を出している」と言われたので「ならば加工乳と献立表に書いて」と要望しました。次月から表示が変わり、年度が替わると、途中から牛乳が出るようになりました。

1993 年、冷夏による米不足のなか、小学生以上の給食には国産米が確保されたものの、それ以下の子どもは対象外でした。そこで保育園の国産米給食要望の署名活動をして、豊明市議会の承認を得ました。

現在、私はプラス・エデュケート（日系外国人小中学生の学習支援 NPO 法人）でボランティア活動をしています。リーマンショックの時、町内の公園で火遊びをしている子たちに注意すると、「おばちゃん仕事ちようだい！」と中学生位の女の子が叫びました。その時は何もできませんでした。今は、10 万国からのルーツをもつ子ども達に少しばかりの支援をしています。

私は目の前の事に助けを求めて声を上げることができ、様々な方と繋がることができました。つながりは皆様の人生に幸せを運ぶことになるでしょう。（学習支援ボランティア）

環境を言い訳にせず

「今」を生きる

49 回生 瀬戸貴幸

昨年からのコロナ禍でサッカー選手としての責任感が増したように感じています。私は現在、家族を日本に残して単身赴任中なので練習以外はほとんど家にいます。元々あまり外出はしない方なので今まで通りの生活スタイルです。サッカーはチームスポーツなので、自分勝手な行動がチームに迷惑をかけてしまいます。チームで感染者が出れば試合が延期や中止になるなど、大変な状況となるので、個人でできることは意識して予防するようにしています。



昨年、インターハイが中止になったと聞きました。サッカーをする私たちにあってプレッシャーする場所がなくなつた時にどんな気持ちになるのか。想像もつきません。

私の高校時代はとにかくサッカーが好きでサッカーに夢中な毎日でした。部活での練習はもちろん一生懸命取り組んでいましたが、早朝練習や部活後の練習が本当に楽しくてそこにすごく時間を費やしました。自分の課題に取り組みというよりは、ボールを蹴って楽しむという感じでしょうか。多い時には朝・昼・部活、部活後に練習したり、先生に帰りなさいと言われて暗くなってから定時制の生徒が運動場に出てきた時の照明で練習したり（実際、定時制の生徒と試合もしました）、家に帰ってから先輩に呼び出されてまたボールを蹴りました。週末にはよく夜中の 12 時過ぎまでボールを蹴っていました。

熱田高校のグラウンドの環境は良いとは言えませんが、どんな環境でも人は成長できると思います。それは自分次第ではありますが、今の私が「今の環境でやれることをしよう」と思えるのは、当時の経験があるからだと感じます。熱田高創立 70 周年の記念事業「先輩からの贈り物」として、グラウンドが人工芝になることは、生徒にはすごく良いことであると思います。私の時代に人工芝であったらおそらく家に帰らずにずっとボールを蹴っていたかもしれせんね。（笑）

高校卒業

後は 1 年半、ブラジルにサッカー留学をしました。ブラジルでプロになることを目指しましたがその夢はかなわずに帰国しました。



その後、日本でフットサルや社会人リーグでサッカーを続け、21歳の時にルーマニアにトライアウトを受けに行きました。ルーマニアの 3 部リーグからのスタートでしたが、順調リーグを上げることができ、ルーマニアの 1 部リーグでプレーすることができています。トルコ・Jリーグ・ラトヴィアでプレーし、またルーマニアに戻ってプレーしています。ブラジルで夢破れ、Jリーガーになれず、たくさんの壁に跳ね返された私でも、プロとして 14 年間プレーを続けられています。

私が大切にしていることは、環境のせいにはしないことです。人は結果がうまくいかなかった時に、周囲や環境のせいにしてしまいがちです。「あの人のせいだ」「こんな環境だか

「らしかたない」。ネガティブな言い訳が、ついつい頭をよぎってしまいがちです。でも、そんな状況でも決して環境のせいにしてしまわないこと。大事なはその人の心の在り方次第だということ。こんな環境「だから」なのか。こんな環境「でも」なのか。コロナ禍で大変な思いをしている人も多いと思います。こんな環境「でも」今の環境で最善を尽くしてみてはいかがでしょうか。

(ルーマニア1部リーグ  
アストラ・ジュルジュ所属)

事務局だより

ホームカミングデー開催の件

参加対象、20〜35回生を軸に企画してりましたが、コロナ禍中さらに変異株の出現も有って、本年度の開催は延期とします。

前回開催の様子



創立70周年記念式典・総会の変更

左記になりました。

日時 令和4年11月6日 午後  
会場 名古屋 東急ホテル

令和2年度

愛知県立熱田高等学校同窓会会計収支決算報告

(令和2年4月7日から 令和3年3月20日まで)

【収入の部】		円
前年度繰越金		6,377,964
入会金 全日制 66回生 313名×@6,000円		1,878,000
〃 定時制 53回生 15名×@6,000円		90,000
〃 定時制 53回生3卒 3名×@4,000円		12,000
名古屋銀行・ゆうちょ普通預金 利息4件		32
合 計		8,357,996 一a
〃 【支出の部】		
会員データ 管理費		55,770
ホームページ維持管理費用		218,090
寄贈 卒業証書ファイル全日・定時 ノート型@460×335冊		154,100
校誌「熱田」5ヶ年分の製本化		51,850
助成金 定時制通信制教育振興会費 5口×@2000		10,000
〃 激励金 女子バスケット部 3×3U18 全国大会出場		55,440
〃 創立70周年記念事業委員会助成金(貸出金)		4,700,000
会議費3件(開催役員会 6/17・8/22・3/13)		310,445
会報21・22号製作費(別冊綴)		264,037
慶弔費 弔電		3,663
通信費 5件		23,720
事務用品 7件(インクカートリッジ2件・大封筒購入費を含む)		59,198
雑費 6件(謝礼4件・図書券2件)		26,293
合 計		5,932,606 一b

次年度繰越金 a-b 2,425,390

令和3年3月25日、上記のとおり会計報告をします。

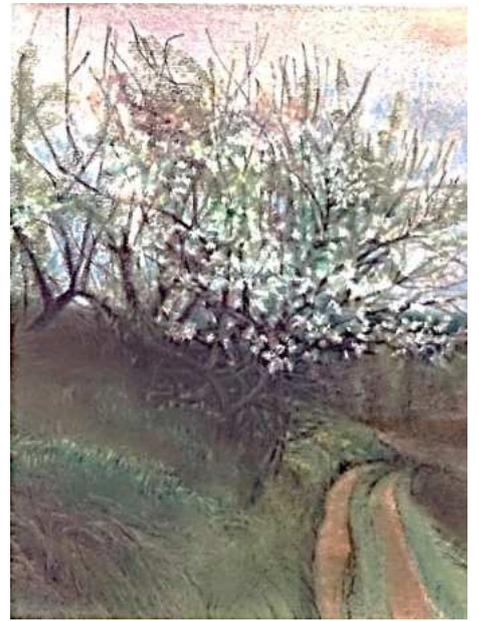
会計代表 神谷和雄

執行担当者 万前秀男 水谷 優

令和元年度会計における証拠書類並びに会計帳簿を精査したところ、正確に処理されていることを認めます。

令和3年3月30日

監査代表 木村隆秀



梅香る小径

(パステル画)

11 回生 田中和枝

(旧姓竹内)



あとがき

新型コロナウイルスが猛威を振るって1年がたつ。2021年4月現在、世界の感染者数は1億4千万人を越え、死者は320万人にせまっている。日本での感染者数は60万人を越し、死者も1万人を超えた。我々はコロナ惨禍が通り過ぎるのをかたずをのんで見守ってる。ワクチン接種の遅れがめだつ。そして日本の医療体制の脆弱さが露呈された。会報は、20年前までは5年に一度作成し、全同窓生・関係者へ配布しました。現在「会報」は年2回発行し熱田高校同窓会ホームページに掲載しております。予算が許せば以前のように5年に一度は全同窓生・関係者に配布したいものです。

「会報23号」は、コロナ禍真っ最中の学校生活を中心に投稿いただきました。「がんばれ熱高生」はOBに原稿を依頼しています。原稿は自由に同窓会事務局に送って下さることを望みます。また原稿は男性が多いため、女性の多いなる参加を望みます。

訃報

日下 英之 第9代校長 令3・4・20

ご逝去に接し、謹んでご冥福をお祈り申し上げますと共にお知らせいたします。

(係より)